

5年目経過報告 オーナー：**パシフィック・セミナー様**（セクターNo. 3-4）

いつも「ウミガメ保護島のオーナーになっちゃおう！」プロジェクトを通して当団体のウミガメ保全活動にご支援頂き、誠にありがとうございます。



パシフィック・セミナー様の保護区間内での5年目の産卵数について、経過報告をします。

	月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	合計
1年	産卵数	214	107	0	0	429	315	675	765	310	0	240	230	3,285
	子ガメ数	115	57	0	0	221	123	451	429	228	0	79	185	1,888
2年	産卵数	431	315	82	145	115	605	394	936	402	0	80	0	3,505
	子ガメ数	275	194	75	64	88	344	303	716	363	0	43	0	2,465
3年	産卵数	125	36	114	430	452	750	886	699	521	250	440	371	5,074
	子ガメ数	82	20	64	228	333	575	604	473	250	151	70	153	3,003
4年	産卵数	361	377	251	376	138	595	569	305	131	0	131	370	3,604
	子ガメ数	117	32	0	60	76	93	220	164	0	0	0	128	890
5年	産卵数	293	176	156	0	169	814※							1,608
	子ガメ数	71	67	133	0	5	444※							720

黄色マーカーの数値は調査後の最終的なデータです(修正しました)。 ※印のデータは、過去の平均を参考にしました。

5年目は、6か月間で合計1,608個の卵が産み落とされ、そのうち720匹の子ガメがふ化して海へと旅立っていきました。ふ化する子ガメが少なかった4年目の4、6月や8、12月は、トカゲに卵を食べられてしまったり、海水を被って呼吸できずに死んでしまったりする卵が多く見られました。4年目は産卵数が減少しましたが、5年目はもう少し増加しそうです。

セガマ・ブサール島の現状



ウミガメ保護島であるセガマ・ブサール島は、実は今インドネシアの中で一番大きいタイマイ繁殖地です。保護を開始した1998年は124巣でしたが、2013年には833巣まで増加しました。そして近年までは、ふ化率も60%ほどであり、自然状態としてはとても順調に保全された島でした。

しかし2013年頃から、以前は見られなかった大型のトカゲによる卵の食害が増えてきており、タイマイの産卵数が増えていても、肝心の“海に帰る子ガメの数”が増えておらず、むしろやや減少傾向に移行しつつあります。トカゲの他にふ化数を減少させている大きな原因としては、海水をかぶることによって卵が死亡してしまうという事があげられます。これに対して出来ることは、あまり無く、海岸のゴミを取り除いて、カメが海岸の奥まで上陸できるようにしてやるという作業くらいです(卵の移植を推奨する人もいますが、移植は雌雄を人為的に変えてしまう可能性があり、ELNAでは実施しません)。保全のためにできるこのような作業を今後は積極的におこないながら、子ガメの数を増やしていく必要があります。

<お問い合わせ>

プロジェクト詳細: 特定非営利活動法人エバーラスティング・ネイチャー www.elna.or.jp info@elna.or.jp 045-432-2358

お支払関係: オンライン寄付サイト Give one www.giveone.net ※Give one 経由で決済の方のみ

次回の報告をお楽しみに！